

# 血液検査に必要な手技「採血」について

この検査は血液検査です。そのため体の中を流れている血液を採取します。

採血は十分な管理のもとに細心の注意を払って、実施させていただきます。

しかし、時には「採血針を刺しても採血できない場合」や「1回の採血で必要量を採取できない場合」があります。

その際には、針を刺す場所を変えて、再度採血させていただきますことをご了承ください。

また、採血は基本的には安全性の高い手技ですが、ごくまれに合併症(併発症)が起こることがあります。裏面に記載されている合併症についてもご了解の上、採血をお受けください。尚、合併症の恐れがみられる場合には検査をお断りすることがあります。

円滑な採血の実施には、皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

# 採血に伴う合併症について

検査のためには静脈内に針を刺す行為を実施します。

基本的には安全に実施できますが、ごく稀に以下のような合併症の報告がありますので、ご承知おきください。

## 止血困難・内出血

採血直後には、針を刺した部位を5分ほどしっかり圧迫して、止血をしてください。決してもまないように押さえてください。出血が止まらない時はスタッフに申し出てください。ただし、内出血があってもほとんどが1週間ほどで自然に治ります。

## 神経損傷

採血後に手指へ広がる痛み、しびれなどが生じ、一定時間が経過した後も持続することがあります。約1万～10万回の採血に1回の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経は個人差が大きいいため、神経損傷を100%防止することは出来ません。

通常の採血では、太い神経の断裂の可能性は低く、損傷は軽度で症状は軽く、一時的な場合がほとんどです。針を刺したことによりひどい痛みやしびれを感じたら速やかにお申し出ください。

## 血管迷走神経反応

心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされ、採血前に起こることもあります。神経が興奮し、急激に血圧が下がるため、めまい、気分不快感、意識消失などをひきおこします。報告によりさまざまですが、0.01%～1%の頻度で起こるとされています。

これらの合併症が起こったときには状況に応じて医療機関の受診が必要となる場合もあります。その際の費用等をご自身の負担となりますのでご了解ください。

# 採血を受けられる方へのお願い

採血を安全に行うために、以下のことにご協力ください。

下記に該当する方は採血スタッフにお申し出ください

- 採血時に御気分の悪くなったことのある方
- 消毒薬(アルコール)に過敏症をお持ちの方（発疹等のアレルギー）
- 止血時のテープにかぶれやすい方やゴム手袋等にアレルギーをお持ちの方
- 血液透析中の方
- 乳房切除手術を受けられた方
- ワ・ファリン・プラビックス・アスピリンなど血液をさらさらにする薬を服用されている方

採血時の止血のお願い

採血した後に血が止まりにくかったり、跡が青くなったりすることがあります。採血後の止血操作が不十分なことが主な原因です。

採血後5分程度、採血したところをしっかりと押さえ、もまずに止血してください。

ご不明な点がございましたら、遠慮なくスタッフにお聞きください。